

牧之原市のタカラモノ

多くの可能性を秘めて、伸び伸び豊かに育つ子どもたちは、市の宝。子どもたちは、大好きな母親や家族などの笑顔が一番好きです。母親や家族などが笑顔で子育てをするためには、私たちは何をすべきなのでしょう。親、家庭、地域でできる子育てについて、考えましょう。

問い合わせ 子育て支援課 下村 ☎0071
子育て支援センター ☎0174



変わる「家庭」子育て

時代の変化と共に便利になった現代。さまざまな日用品が普及し、子育てグッズも充実、インターネットなどからは多くの情報を得ることができるようになり、子育てにも変化が見られるようになりました。一昔前は、祖父母らと同居していたり、近所の人が時には叱つてくれたり、多くの人の目と手が支えていた子育て。現在では三世帯世帯の減少や核家族化、集合住宅住まいや就労状況の多様化などで、祖父母や近所との関わり方も変化しています。家庭という概念と地域との連帯感の希薄化など、家庭とそれを取り巻く環境が大きく変化しています(表1)。

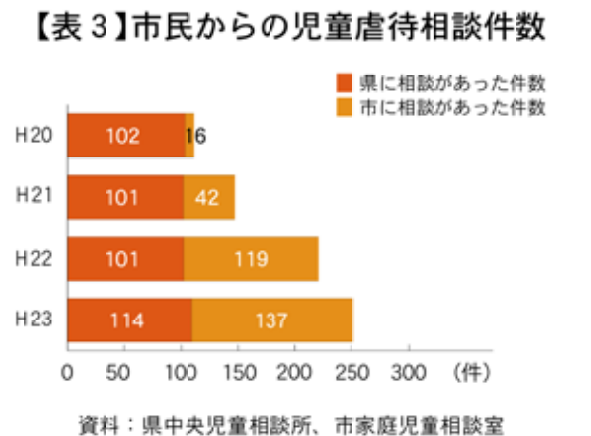
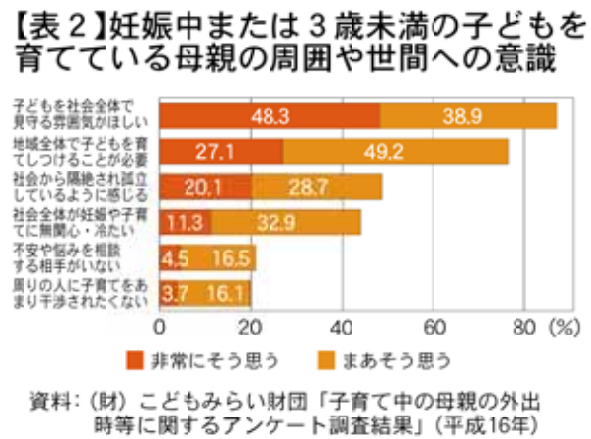
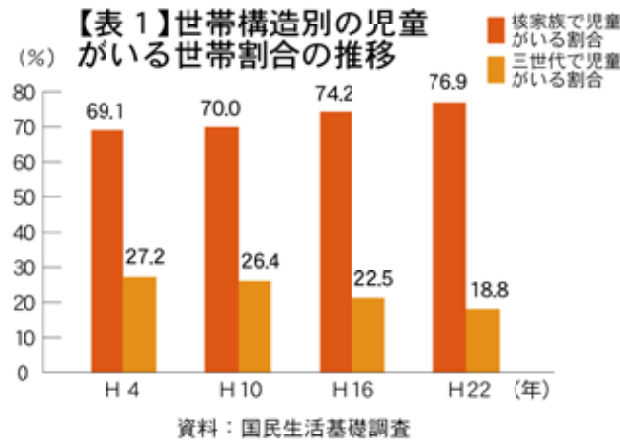
孤立する母親

「育児について相談できる相手が身近にいない」。家庭環境の変化などから、母親が育児の悩みを一人で背負ってしまうケースが多くあります。子育ては多くの喜びや幸せと共に、不安や悩みもつきものです。不安な中での初めての子育て、周囲に気軽に相談できる人が少ないなど、悩みや問題を一人で抱え込んでしまいがち。子育てしている母親の半数は社会から切り離され、孤立しているように感じています(表2)。

母親の孤立感、社会からの疎外感や周囲との関係の希薄化、子育てへの過剰な責任感、子育ては母親がするものという風潮など、複雑な要

増えている虐待

子育て環境のさまざまな変化が引き起こす悲劇が虐待です。昨年度、県内6カ所の児童相談所に寄せられた児童虐待の相談件数は1435件と過去最多で、相談件数は年々増加しています。また市への相談件数は、4年間で8倍に増加しています(表3)。増加の理由は、虐待件数自体が増えたことに加え、虐待についての情報が普及し、通報義務があることも考えられます。さまざまな要因が重なることで、誰もが虐待をしてしまう可能性があるのです。



今、私たちにできること

子育てに不安や悩みはつきもの。特に初めての子どもの場合や、引越してきたばかりで周りに知り合いや頼れる人がいない場合、不安や悩みを一人で抱え込んでしまいがちです。そして、子育てそのものが辛く苦しいものへと変わってしまう可能性も少なくありません。

市内で暮らす母親や家族が笑顔で子育てができるように、今、何が必要なのか。そして、私たちには何ができるのでしょうか。

子育ての孤立化は、本市も例外ではありません。子育て中の母親が話してくれました。

「子どもが生まれて育休に入り、昼も夜も子どもの世話でした。昼間は家に子どもと二人だけ。今は仕事に復帰していますが、当時は、もう、会社や社会に必要とされていないのではないかと感じて辛かったです」

また、別の母親も「初めての子どもで、本当に、何をどうしたらいいかわからなかったんです。私がしていることは正しいのか間違っているのか分からないまま、誰にも相談しませんでした。一人できちんとやって、それを周りに認めてもらいたくて、振り返ると、気負わずに誰かに相談したりすれば、もっと気楽にできたのかもしれないですね」。